

テント教室机上講習会

2015年5月20日
甲田 栄作

①テントの張り方の基本(実践編)

①テントの張り方の基本(実践編)

1. 当会の保有するテント
2. テントの設営場所
3. 張り綱の設営
4. 張り綱の固定法①、②
5. 張り綱の合理的な使い方
6. フライシートの設営
7. テントの設置状況
8. テントの撤収
9. テントのたたみ方



①テントの張り方の基本(実践編)

当会の保有するテント

エスパース6～7人用



フライシート付の状態

エスパース4～5人用



本体のみの状態

当会の保有するテント②

ダンロップV-8 (8人用)

主にベースキャンプ用



テント本体



フライシート付の状態

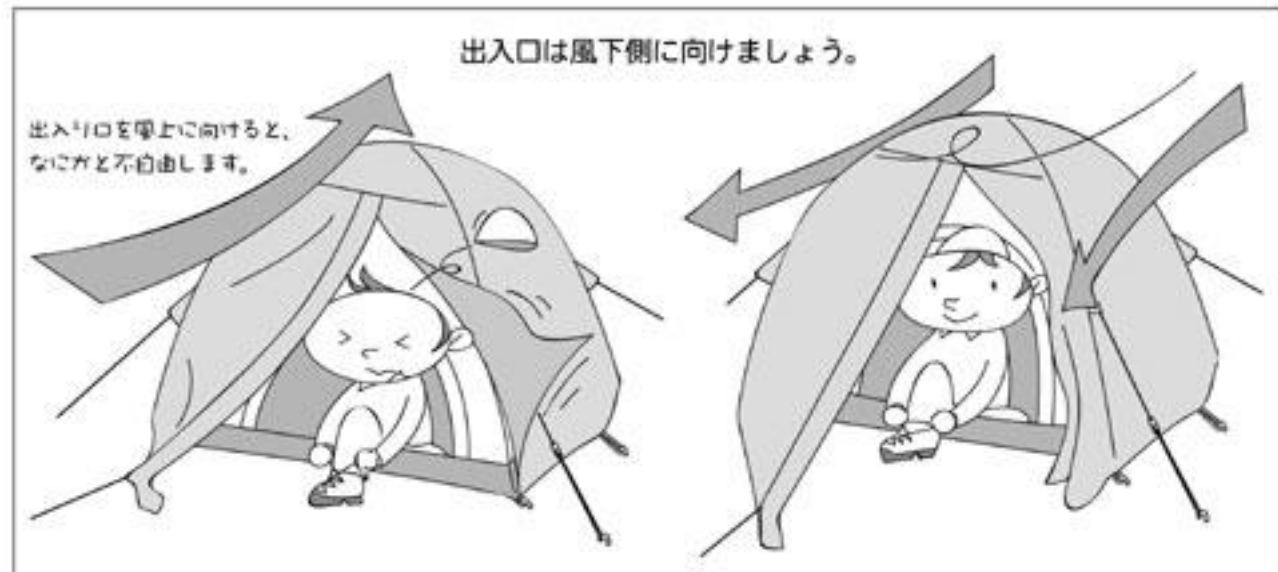
テントの設営場所

①設営場所の選定

- 崖崩れ、雷(大木の下等)、増水など自然災害から回避できること。キャンプ指定地でも注意
- 雪崩、雪庇の崩落が無い事(過去の安心はダメ)

②出入り口

- 風の道を考慮すること。

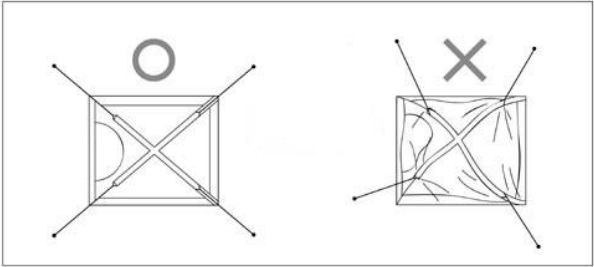


張り綱の設営

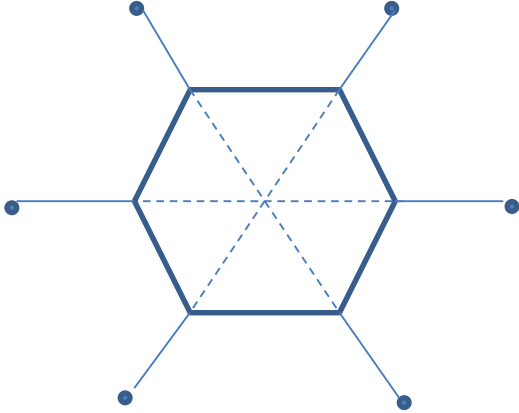
①張り綱の方向

● 相対する張り綱を対角線状に張る。

四角テント



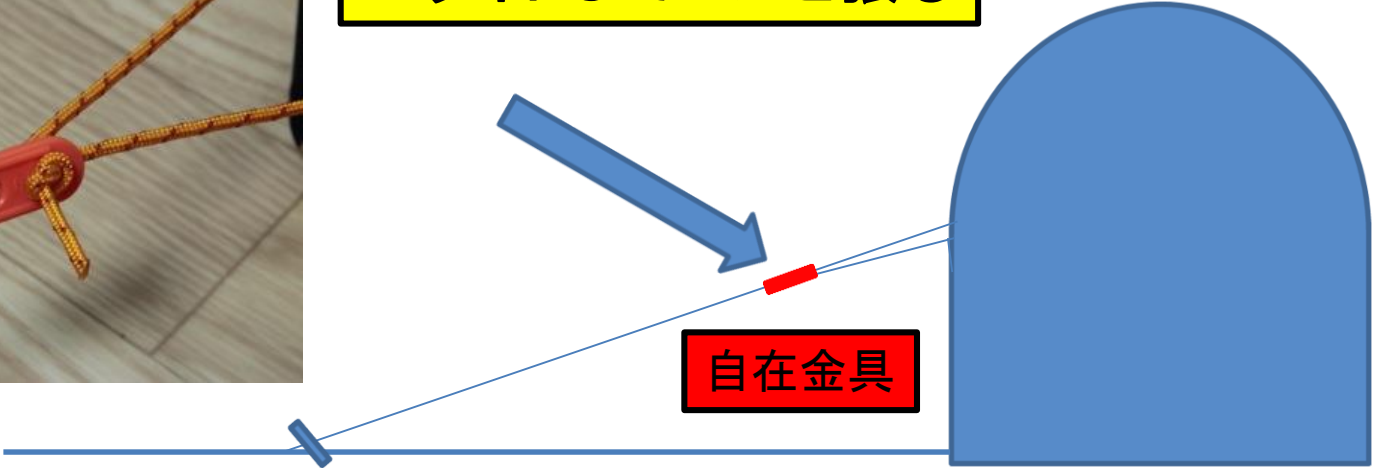
六角テント



自在金具拡大図



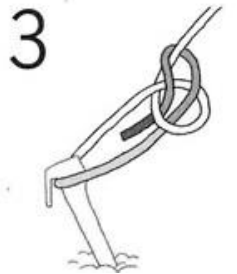
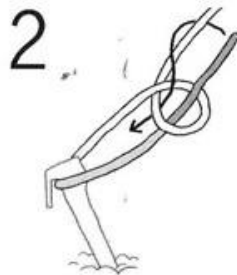
スライドしてピンと張る



張り綱の固定方法①

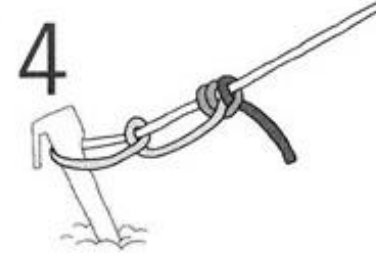
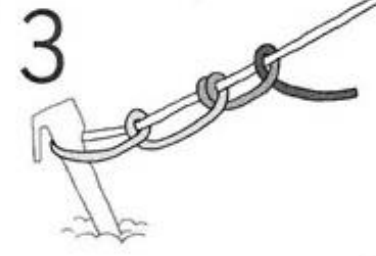
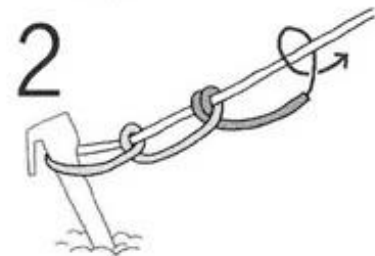
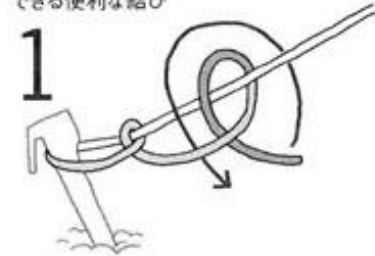
従来紹介されている結び方 夏 = △、冬 = ×

ボーライン

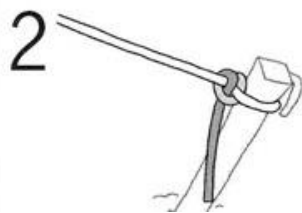
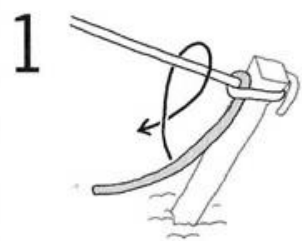


トートライン・ヒッチ

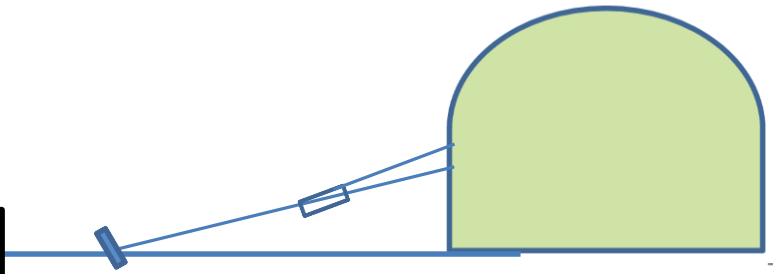
張り綱をピンと張ったり緩めたりすることができる便利な結び



ツー・ハーフ・ヒッチ

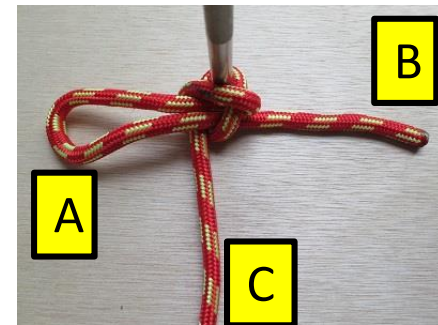


張り綱固定部



張り綱の固定方法②

新しい結び方の提案 夏＝○ 冬＝◎



①ペグにロープをかける

②末端を下から上にロープをくぐらせる。

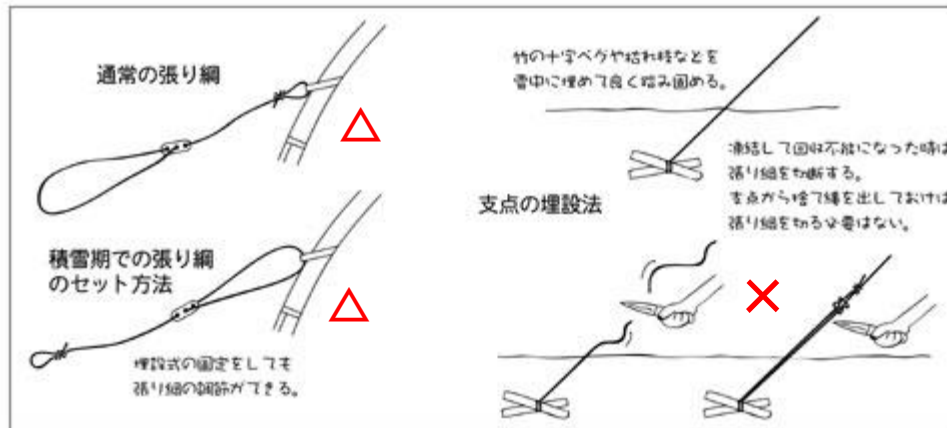
③ロープの腹を持ち上図の様に輪の中に入れる。

④ロープCを引き形を整える。
Aの部分は3cm位。Bの部分は余らしておいて良い。

●ペグから外す時はBを引けば簡単に外れる。
特に冬山のオーバー手袋では効果的。

張り綱の合理的な使い方

●一部で紹介されている方法



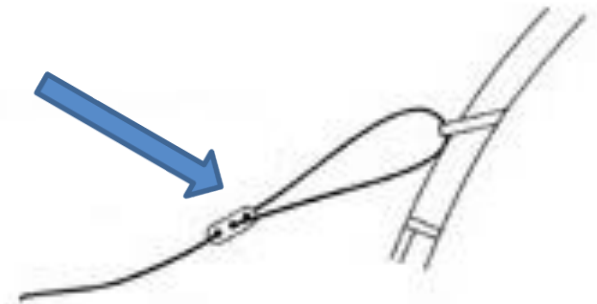
△ = ダメな理由
ペグの場合は良いが立木では使えない。

× = ダメな理由
張り綱の損失、ゴミの残置

●合理的な張り綱に状態

この距離は10cm位にしておき、支点が出来たら自在金具でピンと張る

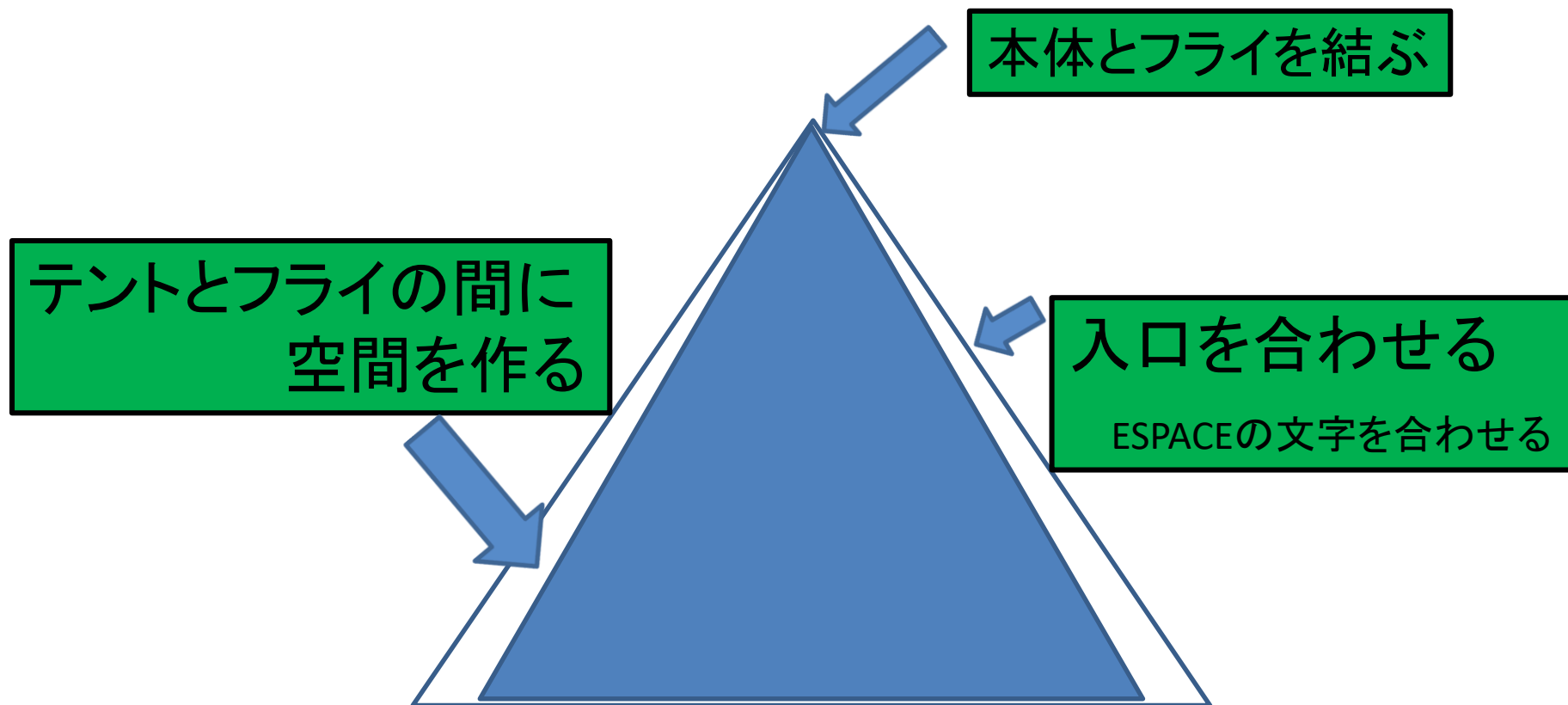
輪を作らずフリー状態



*ジャンボの場合、フライとの絡みから下段の支線のみ利用する。

フライシートの設営

●フライシートのかけ方



注＝フライがすっぽり覆うタイプは本体の張り綱の角度を鋭角のする事

テントの設置状況

廻り目平でのテント教室



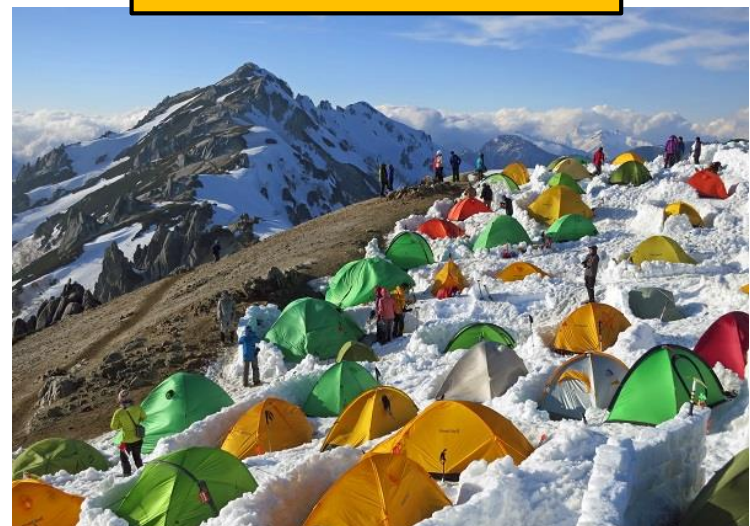
八ヶ岳でのテント教室



秋の涸沢でのテント風景



春の燕でのテント風景



テントの撤収

●テントの分解

- ①ペグの回収: 漏れの無いよう回収する⇒だんだん不足せぬ様。
- ②フライとテントの結びを解き、テントを支柱の付いたまま、逆さにして中のゴミを出す。
- ③テントの支柱を抜き、多人数で端を持ち、雨や砂塵を払う。風の有る時は飛ばされぬ様充分注意。

●張り綱の処理

- ①自在金具をテント又はフライの付け根に移動する。
- ②反対端を付け根に合わせ、30cm前後まで複数回折り曲げ下記のように結ぶ。又はフリー。

○引き解け結び



×止め結び



テントのたたみ方



- ・底を下に形を整える



- ・張り綱は引き解け結び又はフリー。
止め結びはダメ
自在金具はテント側



- ・片方より1/3の位置でたたむ



- ・もう片方を上に被せる



- ・それを二つ折りにする



- ・端より巻いて収納